

年間第10主日

第一朗読 創世記 3・9-15

第二朗読 ニコリント 4・13~5・1

福音朗読 マルコ 3・20-35

2024.6.9 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日の福音の中で、人々を癒したりする、そういうイエス様の業を「悪霊の頭かしらの力で悪霊を追い出している」（マルコ 3・22）と言う人たちがいると、そういうことが語られておりました。

しかし、福音書は、イエス様は神様の力で、聖霊によってその業を行おこなっておられるってことを言っていきたいわけなんですけども、一方で、悪霊の頭かしらの力で悪霊を追い出すということは、どういうことなのでしょう。

わたしは、つい最近と言いましょか、そういうこともあるなあと、自分のことに関して思ったことがあります。わたしは、教会で働いていると言いましょか、司祭として高円寺教会と国際センターと、それぞれの働きのあるわけですけども、疲れを感じる、そういうときに、お祈りとか教会とか信仰生活とか、そういうことから離れてリラックスする、そういう時にもう一回元気を得るっていうような思いを持っている面があります。例えば、わたしが一番やる気晴らしはプールに行くんですけども、よくプールに行くとか、それだけじゃなくて、次の日に朝のごミサがなければちょっと夜更かしできる、でも夜更かししてお祈りするんじゃない、ずうっと YouTube 見てるとか、最近そんなに飲みにとかは行かないんですけども、でも近所に知り合いがお店を開いたのでそこに行くとか、そういうような形で、あと、温泉に行きたいなあとかマッサージ受りたいなあとか、そういうような形で、お祈りとかイエス様に仕えるって仕事のこと——仕事って言っちゃあ変なんですけど——霊的生活の活力を霊的生活の外から、離れたところから得ようとしているって、そういうことを期待しているって自分にはっと気が付いたことがあります。でもそれはほんとの活力にならないな、余計疲れるとか、また次に教会のことから離れられる日はいつかなってことを待ちわびたりとか、そういうような形で、離れてリラックスしようと思えばするほど霊的な活力が失われていくような、「ああ、これはまさに悪霊の力で悪霊を追い出そうとしているってことなんじゃないのかな」っていうふうに感じることもありました。

自分は聖人みたいに一晩中ご聖体の前でお祈りすることを通して力を得るような者ではないんだ、だから教会から離れて、忘れてリラックスしなきゃいけないって思い込んでるっていうか、でも、イエス様とともに働く、あるいはイエス様のために、そして教会の中で働く者にとって、そこの外から力を得るっていうことは、はたから見れば有り得ないことだし——というようなことは皆さんは分かると思うんですけども——知らず知らずのうちにそういう気持ちになっている。それはまさに、イエス様ご自身から力をいただくっていうことをあきらめちゃっている、聖霊が働いてわたしを変えてくださるんだっていうことをあきらめている、そういうことになるかもしれないなあ、と。それはある意味で聖霊を冒瀆する——聖霊なんて無いんだとか、イエス様は悪霊によって働いてるんだって言いもしないけど——ある意味で聖霊の働きを軽んじているという意味では、冒瀆しているということになるかもしれないわけです。

神様からの助けを求めないならば、いつまでたっても神様の側が、イエス様が与えようとしている力をわたしたちは——わたしは、ですね——いつまでたっても受け取ることができない。そういう意味では「聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されない」(マルコ3・29) っていう——きつい言葉ですけども——あり得るんじゃないかなと、わたしもそれは経験しているということではないかなあって気がします。

皆さんは如何でしょうか。それぞれ、教会の中で働くという役割ではないかもしれませんが、それぞれの場で自分自身を生きていこうとする、その時にほんとの活力をどこから得ようとしているのかということをおもったときに、やはりイエス様からいただくこと、その希望を持っているのか、期待感を持ってそこを中心に行っているだろうか、それともそうでない場所にいつもやすらぎとか力の源を求めているだろうか、と振り返ってみるとということも役に立つんじゃないかなあと思います。

わたしは決して、信仰生活に直接係わらないいろいろなものは悪の業です、禁欲生活が正しい、みたいなことを目指している、あるいは言おうとしているというわけではないんだけど、でも中心に「イエス様とともにある」っていうことがあるならば、それ以外の楽しみっていうことが秩序づけられていくっていうのかな——程良い配分、程良い時間、そしてどこにあってもそれをイエスとともに楽しむ——そういうような中で全てのことがひとつにまとまっていくんじゃないかな、そうではなくて、イエス様から離れて、お祈りを忘れて、別の場所でリラックスしようとしてもほんとの力にはならないんだなっていうことを感じてるんです。

今日の第一朗読では、神様から離れたアダムが木の間に隠れている、そのアダムに対して、「どこにいるのか」(創世記3・9) っていうふうに神様が呼び掛ける、そういうところが朗読されました。神様がアダムを捜しているっていうよりは、むしろ

ろ、神様は全てをご存知ですけども、でも、あなたはどこにいるのか、神様から離れて違うところにいる、それでいいのか、わたしの愛は変わらないんだからこっちに来てほんとの回復、傷付いたその心を癒される神のもとに戻って来い、といつもそう呼んでいる——なんか押し入れの中に隠れた子どもに「そんな所にいないでこっちに来てご飯食べなさいよ」ってお父さん、お母さんが言うかもしれない——そういうような呼び掛けをアダムに対してなさったっていうような箇所じゃないかなあと思うんです。

わたしたちに対しても、神様はいつも、離れた所に力を得ようとするときに、「どこにいるのか、あなたの力の源はそこではないよね。信頼してこちらに戻ってくるように」といつも呼び掛けていらっしゃるのではないかなあと思います。

わたしたちが今日改めて、自分自身のそういう弱さとか神様から遠く離れた状態ではなくて、神様ご自身が呼んでいらっしゃる、そして力を与えようとされる聖霊の力に改めて心を開く、信頼をし直す、そういう思いをもって、それぞれがイエス様ご自身から力をいただくことができるように、心を合わせてこのごミサをお捧げできたら良いなあと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>